

診療報酬調査専門組織（DPC評価分科会）座席表

（日時）平成22年9月24日（金）13:00～15:00

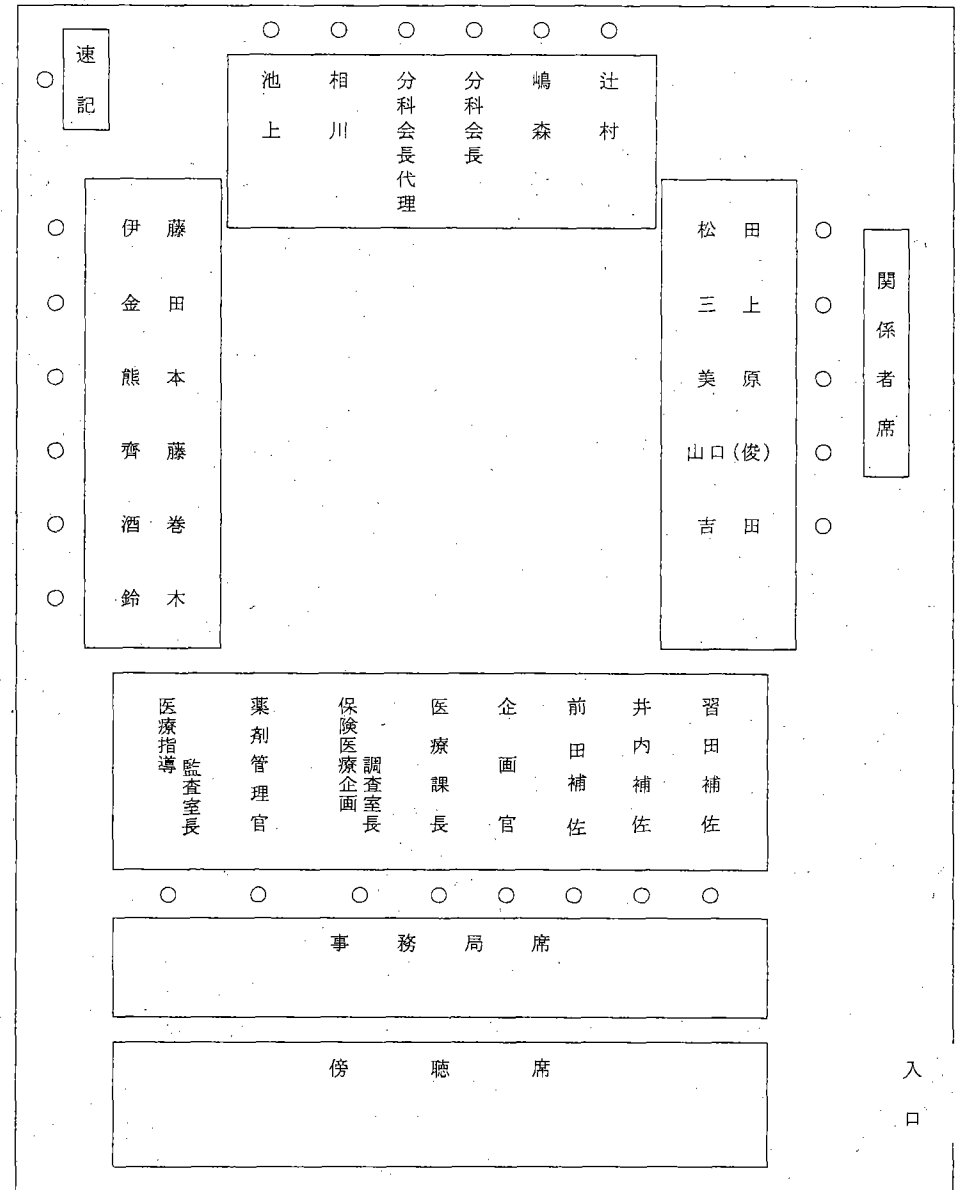
（会場）厚生労働省専用第22会議室（18階）

平成22年度 第6回 診療報酬調査専門組織・DPC評価分科会

日時：平成22年9月24日（金）13:00～15:00
 場所：厚生労働省専用第22会議室（18階）

議事次第

1. 平成22年度特別調査について（案）
2. DPC制度に係る今後の検討について（案）
3. その他



診療報酬調査専門組織・DPC評価分科会委員一覧

<委員>

氏名	所属等
相川 直樹	財団法人国際医学情報センター理事長
池上 直己	慶應義塾大学医学部医療政策・管理学教授
伊藤 澄信	独立行政法人 国立病院機構 総合研究センター 臨床研究統括部長
金田 道弘	社会医療法人緑社会理事長兼金田病院長
三上 裕司	日本医師会常任理事・特定医療法人三上会 総合病院東香里病院理事長
熊本 一朗	鹿児島大学医療情報管理学教授
○ 小山 信彌	東邦大学医療センター大森病院心臓血管外科部長
齊藤 壽一	社会保険中央総合病院名誉院長
酒巻 哲夫	群馬大学医療情報部教授
鈴木 洋史	日本病院薬剤師会常務理事・東京大学医学部附属病院薬剤部教授
嶋森 好子	社団法人東京都看護協会会長
辻村 信正	国立保健医療科学院次長
難波 貞夫	富士重工業健康保険組合総合太田病院病院長
◎ 西岡 清	横浜市立みなと赤十字病院名誉院長
松田 晋哉	産業医科大学医学部公衆衛生学教授
美原 盤	財団法人脳血管研究所附属美原記念病院院長
山口 俊晴	癌研究会有明病院消化器外科部長
山口 直人	東京女子医科大学医学部衛生学公衆衛生学第二講座主任教授
吉田 英機	昭和大学医学部名誉教授

◎ 分科会長

○ 分科会長代理

平成 22 年度特別調査について(案)

- 平成 22 年度 DPC 特別調査は、
 - (1) DPC 制度導入影響の評価
 - (2) 機能評価係数Ⅱを含めた診療報酬評価の在り方について調査することとされている(平成 22 年 8 月 3 日・中医協総会【総一2】等)。
- 今回、DPC 制度導入影響の評価として、
 - 1. 再入院(再転棟)に係る調査
 - 2. 化学療法等の外来、入院別実施状況調査
 - 3. 医師あたり患者数等の動向調査の3点の調査を行う。
- なお、機能評価係数Ⅱを含めた診療報酬評価の在り方に関する調査については、今後の中医協総会、DPC 分科会等の議論を踏まえ、必要に応じて行うこととする。

1. 再入院(再転棟)に係る調査

(1) 調査の目的

- 医療の効率化の 1 つの指標として在院日数が用いられるが、在院日数の短縮が図られている中で、提供されている医療サービスが低下していないかどうかを再入院(再転棟)の頻度やその理由を指標として検証する。(従来と同様)

(2) 調査方法

- 再入院ありと判断された患者については「再入院調査票」により再入院の状況の調査を行うが、これまでの調査結果を踏まえ、計画的な再入院について化学療法、放射線療法の選択肢をわける、選択頻度の少ない項目を統合する、など調査票の見直しを【資料D-1-2】、【資料D-1-3】のとおり行う。
- 再転棟患者についても同旨の調査を行う。
- 再入院、再転棟患者の抽出は、従来と同様の手法で行うこととし、平成 22 年退院患者に係る調査実施期間中に収集された退院患者データから行う。
- すべての DPC 対象病院、DPC 準備病院を対象とする。(平成 21 年度に調査対象となった医療機関は再入院調査 1,607 病院、再転棟調査 611 病院)

2. 化学療法等の外来、入院別実施状況調査

(1) 調査の目的

- がん医療については、一般に外来での診療が推進される傾向にあるが、DPC 制度が逆に、外来化学療法の推進を抑制していないか(入院で化学療法を実施するインセンティブが働くのではないか)、化学療法の入院／外来での実施状況の調査による評価を試みる。同様に、放射線療法、短期滞在手術についても調査対象とする。
- また、これらの入院／外来での実施状況について、地域や施設特性等による影響の有無についても併せて検討する。

(2) 調査方法

- 化学療法、放射線療法及び短期滞在手術に関し、入院での実施状況については既存の通常調査データから調査することとするが、既存のデータで把握できない、外来での実施状況は、診療報酬上、算定件数が把握できる、以下の項目について経年変化を調査する【資料D-1-4、問3】。

(化学療法)

- ・ 外来化学療法加算1、外来化学療法加算2

(放射線療法)

- ・ 高エネルギー放射線治療、強度変調放射線治療
- ・ ガンマナイフによる定位放射線治療
- ・ 直線加速器による定位放射線治療

(短期滞在手術)

- ・ 痔核手術
- ・ ヘルニア手術(鼠径ヘルニア)
- ・ 体外衝撃波腎・尿管結石破砕術
- ・ 水晶体再建術、後発白内障手術
- ・ 心臓カテーテル法による諸検査
- ・ 胃・十二指腸ファイバースコープ、大腸ファイバースコープ
- ・ 内視鏡的胃、十二指腸ポリープ粘膜切除術
- ・ 内視鏡的結腸ポリープ粘膜切除術、内視鏡的大腸ポリープ粘膜切除術

- 化学療法に関しては、症例数が多く、外来においても実施可能な以下のものに対し、医療機関毎に調査期間中の実施件数を調査する。【資料D-1-4、問4】
 - ・ 大腸がんに対する FOLFOX/FOLFIRI 療法
 - ・ 胃癌もしくは乳癌に対するパクリタキセル単剤療法
 - ・ 卵巣癌、子宮頸癌、子宮体癌もしくは肺癌に対するパクリタキセル、カルボプラチン併用療法

- すべての DPC 対象病院、DPC 準備病院を対象とする。

3. 医師あたり患者数等の動向調査

(1) 調査の目的

- 在院日数の短縮等に伴い、勤務医一人あたりの業務量が増大していないか、実際に従事した医師数と実施件数等が特定可能な診療内容に関して実施状況の調査により評価を試みる。

(2) 調査方法

- 以下のとおりの、実施件数が診療報酬上の算定等から把握可能な項目や、通常調査のデータから調査可能な項目について経年変化の調査を行い、併せて、関係する医師数の報告を求め、医師1人あたりの実施件数を推定する【資料D-1-4 問1、問2】。

医師数	調査対象とする実施件数
① 医師数の特定が比較的容易なもの	
全医師数	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1日平均外来患者数 ・ 1日平均入院患者数
産婦人科医師数	<ul style="list-style-type: none"> ・ 分娩数(うち異常分娩数)
小児科医師数	<ul style="list-style-type: none"> ・ 15歳以下の入院で、手術を伴わないもの
麻酔科医師数	<ul style="list-style-type: none"> ・ マスクまたは気管内挿管による閉鎖循環式全身麻酔
脳外科医師数	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「K145 穿頭脳室ドレナージ術」から「K177 脳動脈瘤頸部クリッピング」までの総算定件数
心臓血管外科医師数	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「K538 心膜縫合術」から「K605-4 同種心肺移植術」までのうち、開胸を伴うものの総算定件数
整形外科医師数	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「K060 関節切開術」から「K144 体外式脊椎固定術」までの総算定件数
眼科医師数	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水晶体再建術、後発白内障手術
放射線科医師数	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高エネルギー放射線治療、強度変調放射線治療 ・ ガンマナイフによる定位放射線治療 ・ 直線加速器による定位放射線治療
② 医師数の特定がやや困難なもの	
循環器内科医師数等のカテーテル検査・手術の従事者数	<ul style="list-style-type: none"> ・ 心臓カテーテル法による諸検査 ・ 「K546 経皮的冠動脈形成術」から「K550-2 経皮的冠動脈血栓吸引術」までの総算定件数
消化器内科医師数等の消化管内視鏡検査・手術従事者数	<ul style="list-style-type: none"> ・ 胃・十二指腸ファイバースコープ ・ 大腸ファイバースコープ ・ 内視鏡的胃、十二指腸ポリープ、粘膜切除術 ・ 内視鏡的結腸ポリープ・粘膜切除術

③ 医師数の特定が難しいもの	
救急医療に従事する 医師数	<ul style="list-style-type: none">・救急車等で搬送された患者数・うち、入院した患者数

○ すべての DPC 対象病院、DPC 準備病院を対象とする。

「平成22年度特別調査 再入院に係る調査」調査票

◇ 医療機関名：
 ◇ 患者データ識別番号： 生年月日（西暦）：
 ◇ 診療科コード（前回退院時）：
 診断群分類（前回退院時）：
 最医資病名（前回退院時）：
 入院日： ICD-10：
 退院日： 退院時転帰：
 入院目的：
 ◇ 診療科コード（今回退院時）：
 診断群分類（今回退院時）：
 最医資病名（今回退院時）：
 入院日： ICD-10：
 退院日： 退院時転帰：
 入院目的：

◇ 再入院の理由：
 「計画的再入院」か、「予期された再入院」か、「予期せぬ再入院」かをまず判断し、その具体的理由の欄に「○」を記入してください。
 「あり得る」合併症の発症や疾患の再発があって再入院した場合でも、それが患者に対して十分な説明がなされておらず、予期されていなかった場合には「予期せぬ再入院」としてください。
 項目を選択するに当たっては、参考資料の例を参照してください。

* 計画的再入院
 ① 前回入院で術前検査等を行い、今回入院で手術を行うため
 ② 前回入院以前に手術を行い、今回入院で計画的に術後の手術・処置・検査を行うため
 ③ 計画的な化学療法のため
 ④ 計画的な放射線療法のため
 ⑤ 前回入院時、予定された手術・検査等が実施できなかったため
 ⑥ その他（_____）

* 予期された再入院
 ① 予期された疾病の悪化、再発のため
 ② 予期された合併症発症のため
 ③ その他（_____）

* 予期せぬ再入院
 ① 予期せぬ疾患の悪化、再発のため
 ② 予期せぬ合併症発症のため
 ③ 他疾患発症のため
 ④ その他（_____）

(参考)

再入院理由の具体例

	項目	具体例
* 計 画 的 再 入 院	① 前回入院で術前検査等を行い、今回入院で手術を行うため	小児の先天性心室中隔欠損症で前回カテーテル検査のため入院、今回はパッチ閉鎖手術のため入院。
	② 前回入院以前に手術を行い、今回入院で計画的に術後の手術・処置・検査を行うため	前回、骨折で入院して観血的整復術をうけた。今回、抜釘手術のため入院。 前回、急性心筋梗塞で大動脈バイパス手術を受けた。今回、術後のカテーテル検査のため入院。
	③ 計画的な化学療法のため	前回、急性骨髄性白血病に対する化学療法のため入院、今回も化学療法を受けるため入院。
	④ 計画的な放射線療法のため	前回、肺がんに対する化学療法のため入院、今回は放射線療法を受けるため入院。
	⑤ 前回入院時、予定された手術・検査等が実施できなかったため	小児で斜視手術のため入院したが、前日夕に咽頭部の発赤と発熱があったので手術を中止して退院、軽快したので2週間後に手術のため入院。
	⑥ その他	
* 予 期 さ れ た 再 入 院	① 予期された疾患の悪化、再発のため	前回、胃癌再発で入院し治療をうけて退院、自宅療養中であつたが腹水貯留が著しく、嘔吐を繰り返すようになり入院。
	② 予期された合併症発症のため	食道癌治療のため入院、患者の希望で胃瘻は造設されなかったが、退院時誤嚥性肺炎がおこることもあるとの説明を受けていた。退院一週間後誤嚥性肺炎が発症したので入院。
	③ その他	
* 予 期 せ ぬ 再 入 院	① 予期せぬ疾患の悪化、再発のため	前回、虚血性心疾患で入院、治療をうけて軽快退院、退院時風邪をひかないようにとの注意を受けていたが、心不全になるとの説明はうけていなかった。退院1ヶ月後風邪をひき、心不全になったので入院。
	② 予期せぬ合併症発症のため	前回、食道癌治療のため入院、患者の希望で胃瘻は造設されなかったが、今後誤嚥性肺炎がおこりうるとの説明はなかった。退院1週間後誤嚥性肺炎のため入院。
	③ 他疾患発症のため	前回、白内障のため眼内レンズ挿入術をうけて退院、その5日後急性心筋梗塞を発症して入院。
	④ その他	

再転棟理由の具体例

	項目	具体例
* 計 画 的 再 転 棟	① 術前検査等で DPC 算定病棟へ入院後手術のため	狭心症で前回カテーテル検査のため DPC 算定病棟へ入院、今回は冠動脈形成術のため DPC 算定病棟へ転棟。
	② 計画的手術・処置・検査のため	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前回、骨折で DPC 算定病棟へ入院して観血的整復術を受けた。今回、抜釘手術のため DPC 算定病棟へ転棟。 ・ 前回、急性心筋梗塞で大動脈バイパス手術を受けた。今回、術後のカテーテル検査のため DPC 算定病棟へ転棟。
	③ 計画的化学療法のため	前回、急性骨髄性白血病に対する化学療法のため DPC 算定病棟へ入院、今回も化学療法を受けるため DPC 算定病棟へ転棟。
	④ 計画的放射線療法のため	前回、肺がんに対する化学療法のため DPC 算定病棟へ入院、今回は放射線療法を受けるため DPC 算定病棟へ転棟。
	⑤ 前回 DPC 算定病棟での入院時、予定された手術・検査等を中止して一時転棟したため	白内障手術のため DPC 算定病棟へ入院したが、前日夕に咽頭部の発赤と発熱があったので手術を中止して転棟、軽快したので2週間後に手術のため DPC 算定病棟へ転棟。
	⑥ その他	
* 予 期 さ れ た 再 転 棟	① 予期された疾患の悪化、再発のため	前回、胃癌再発で DPC 算定病棟へ入院し治療を受けて転棟、療養中であったが腹水貯留が著しく、嘔吐を繰り返すようになり DPC 算定病棟へ転棟。
	② 予期された合併症発症のため	食道癌治療のため DPC 算定病棟へ入院、患者の希望で胃瘻は造設されなかったが、転棟時に誤嚥性肺炎がおこることもあるとの説明を受けていた。転棟一週間後誤嚥性肺炎が発症したので DPC 算定病棟へ転棟。
	③ その他	

* 予 期 せ ぬ 再 転 棟	① 予期せぬ疾患の悪化、再発のため	前回、虚血性心疾患で DPC 算定病棟へ入院、治療を受けて軽快転棟、転棟時風邪をひかないようにとの注意を受けていたが、心不全になるとの説明はうけていなかった。転棟 1 ヶ月後風邪をひき、心不全になったので DPC 算定病棟へ転棟。
	② 予期せぬ合併症発症のため	前回、食道癌治療のため DPC 算定病棟へ入院、患者の希望で胃瘻は造設されなかったが、今後誤嚥性肺炎がおりうるとの説明はなかった。転棟 1 週間後誤嚥性肺炎のため DPC 算定病棟へ転棟。
	③ 他疾患発症のため	前回、白内障のため眼内レンズ挿入術を受けて転棟、その 5 日後急性心筋梗塞を発症して DPC 算定病棟へ転棟。
	④ その他	

※DPC 算定病棟とは、以下の入院基本料等を届出ている病棟をいう。

- ・一般病棟入院基本料
- ・特定機能病院入院基本料（一般）
- ・専門病院入院基本料
- ・救命救急入院料
- ・特定集中治療室管理料
- ・ハイケアユニット入院医療管理料
- ・脳卒中ケアユニット入院医療管理料
- ・新生児特定集中治療室管理料
- ・総合周産期特定集中治療室管理料
- ・広範囲熱傷特定集中治療室管理料
- ・一類感染症患者入院医療管理料
- ・小児入院医療管理料

「平成22年度特別調査 再入院に係る調査」調査票 【新旧対照表】

新	旧
<p>◇ 医療機関名： ◇ 患者データ識別番号： 生年月日（西暦）： ◇ 診療科コード（前回退院時）： 診断群分類（前回退院時）： 最医資病名（前回退院時）： 入院日： ICD - 10： 退院日： 退院時転帰： 入院目的： ◇ 診療科コード（今回退院時）： 診断群分類（今回退院時）： 最医資病名（今回退院時）： 入院日： ICD - 10： 退院日： 退院時転帰： 入院目的：</p>	<p>◇ 医療機関名： ◇ 患者データ識別番号： 生年月日（西暦）： ◇ 診療科コード（前回退院時）： 診断群分類（前回退院時）： 最医資病名（前回退院時）： 入院日： ICD - 10： 退院日： 退院時転帰： 入院目的： ◇ 診療科コード（今回退院時）： 診断群分類（今回退院時）： 最医資病名（今回退院時）： 入院日： ICD - 10： 退院日： 退院時転帰： 入院目的：</p>
<p>◇ 再入院の理由： 「計画的再入院」か、「予期された再入院」か、「予期せぬ再入院」かをまず判断し、その具体的理由の欄に「○」を記入してください。 「あり得る」合併症の発症や疾患の再発があって再入院した場合でも、それが患者に対して十分な説明がなされておらず、予期されていなかった場合には「予期せぬ再入院」としてください。 項目を選択するに当たっては、参考資料の例を参照してください。 * 計画的再入院 () ① 前回入院で術前検査等を行い、今回入院で手術を行うため () ② 前回入院以前に手術を行い、今回入院で計画的に術後の手術・処置・検査を行うため () ③ 計画的な化学療法のため () ④ 計画的な放射線療法のため [削除] () ⑤ 前回入院時、予定された手術・検査等が実施できなかったため [削除] () ⑥ その他 () * 予期された再入院 () ① 予期された疾病の悪化、再発のため () ② 予期された合併症発症のため [削除] [削除] () ③ その他 () * 予期せぬ再入院 () ① 予期せぬ疾患の悪化、再発のため () ② 予期せぬ合併症発症のため () ③ 他疾患発症のため () ④ その他 ()</p>	<p>◇ 再入院の理由： 「計画的再入院」か、「予期された再入院」か、「予期せぬ再入院」かをまず判断し、その具体的理由の欄に「○」を記入してください。 「あり得る」合併症の発症や疾患の再発があって再入院した場合でも、それが患者に対して十分な説明がなされておらず、予期されていなかった場合には「予期せぬ再入院」としてください。 項目を選択するに当たっては、参考資料の例を参照してください。 * 計画的再入院 () ① 検査入院後手術のため () ② 計画的手術・処置のため () ③ 化学療法・放射線療法のため () ④ 定期検査のため () ⑤ 前回入院時、検査・手術を中止して帰宅したため () ⑥ 手術のための体調回復をまつために一時帰宅したため () ⑦ その他 () * 予期された再入院 () ① 予期された疾病の悪化、再発のため () ② 予期された合併症発症のため () ③ 患者のQOL向上のため一時帰宅したため () ④ 前回入院において患者の都合により退院したため () ⑤ その他 () * 予期せぬ再入院 () ① 予期せぬ疾患の悪化、再発のため () ② 予期せぬ合併症発症のため () ③ 他疾患発症のため () ④ その他 ()</p>

再入院理由の具体例 【新旧対照表】

新		旧	
* 計 画 的 再 入 院	① 前回入院で術前検査等を行い、今回入院で手術を行うため	小児の先天性心室中隔欠損症で前回カテーテル検査のため入院、今回はパッチ閉鎖手術のため入院。	① 検査入院後手術のため 小児の先天性心室中隔欠損症で前回カテーテル検査のため入院、今回はパッチ閉鎖手術のため入院。
	② 前回入院以前に手術を行い、今回入院で計画的に術後の手術・処置・検査を行うため	前回、骨折で入院して観血的整復術を受けた。今回、抜釘手術のため入院。 前回、急性心筋梗塞で大動脈バイパス手術を受けた。今回、術後のカテーテル検査のため入院。	② 計画的手術・処置のため 前回、骨折で入院して観血的整復術を受けた。今回、抜釘手術のため入院。
	③ 計画的な化学療法のため	前回、急性骨髄性白血病に対する化学療法のため入院、今回も化学療法を受けるため入院。	③ 化学療法・放射線療法のため 前回、急性骨髄性白血病に対する化学療法のため入院、今回も化学療法を受けるため入院。
	④ 計画的な放射線療法のため	前回、肺がんに対する化学療法のため入院、今回は放射線療法を受けるため入院。	* 計 画 的 再 入 院
	[削除]	[削除]	
	⑤ 前回入院時、予定された手術・検査等が実施できなかったため	小児で斜視手術のため入院したが、前日夕に咽頭部の発赤と発熱があったので手術を中止して退院、軽快したので2週間後に手術のため入院。	④ 定期検査のため 前回、急性心筋梗塞で大動脈バイパス手術を受けた。今回、術後のカテーテル検査のため入院。
	[削除]	[削除]	⑤ 前回入院時、検査・手術を中止して帰宅したため 小児で斜視手術のため入院したが、前日夕に咽頭部の発赤と発熱があったので手術を中止して退院、軽快したので2週間後に手術のため入院。
	⑥ その他		⑥ 手術のための体調回復をまつために一時帰宅したため 前回、極度の貧血のため入院、子宮筋腫の診断のもと貧血に対する治療を行い退院、今回、貧血が改善したので手術（単純子宮全摘術）目的で入院。
		⑦ その他	

		新	旧
* 予期された再入院	① 予期された疾患の悪化、再発のため	前回、胃癌再発で入院し治療をうけて退院、自宅療養中であつたが腹水貯留が著しく、嘔吐を繰り返すようになり入院。	① 予期された疾患の悪化、再発のため 前回、胃癌再発で入院し治療をうけて退院、自宅療養中であつたが腹水貯留が著しく、嘔吐を繰り返すようになり入院。
	② 予期された合併症発症のため	食道癌治療のため入院、患者の希望で胃瘻は造設されなかったが、退院時誤嚥性肺炎がおこることもあるとの説明を受けていた。退院一週間後誤嚥性肺炎が発症したので入院。	② 予期された合併症発症のため 食道癌治療のため入院、患者の希望で胃瘻は造設されなかったが、退院時誤嚥性肺炎がおこることもあるとの説明を受けていた。退院一週間後誤嚥性肺炎が発症したので入院。
	[削除]	[削除]	③ 患者のQOL向上のため一時帰宅したため 前回、肺小細胞癌で入院したが、ターミナルであるが小康をえていたので、患者のQOLの向上を図るため退院、今回、疼痛や呼吸困難が強くなり入院。
	[削除]	[削除]	④ 前回入院において患者の都合により退院したため 大腸ポリープの内視鏡手術のため入院したが、患者親戚に不幸があり、下血等の症状がなかったため退院。所用も片付いたので、再度入院してポリープ切除を受けた。
	③ その他		⑤ その他
* 予期せぬ再入院	① 予期せぬ疾患の悪化、再発のため	前回、虚血性心疾患で入院、治療をうけて軽快退院、退院時風邪をひかないようにとの注意を受けていたが、心不全になるとの説明はうけていなかった。退院1ヶ月後風邪をひき、心不全になったので入院。	① 予期せぬ疾患の悪化、再発のため 前回、虚血性心疾患で入院、治療をうけて軽快退院、退院時風邪をひかないようにとの注意を受けていたが、心不全になるとの説明はうけていなかった。退院1ヶ月後風邪をひき、心不全になったので入院。
	② 予期せぬ合併症発症のため	前回、食道癌治療のため入院、患者の希望で胃瘻は造設されなかったが、今後誤嚥性肺炎がおこりうるとの説明はなかった。退院1週間後誤嚥性肺炎のため入院。	② 予期せぬ合併症発症のため 前回、食道癌治療のため入院、患者の希望で胃瘻は造設されなかったが、今後誤嚥性肺炎がおこりうるとの説明はなかった。退院1週間後誤嚥性肺炎のため入院。
	③ 他疾患発症のため	前回、白内障のため眼内レンズ挿入術をうけて退院、その5日後急性心筋梗塞を発症して入院。	③ 他疾患発症のため 前回、白内障のため眼内レンズ挿入術をうけて退院、その5日後急性心筋梗塞を発症して入院。
	④ その他		④ その他

再転棟理由の具体例 【新旧対照表】

新		旧				
* 計 画 的 再 転 棟	① 術前検査等でDPC算定病棟へ入院後手術のため	狭心症で前回カテーテル検査のためDPC算定病棟へ入院、今回は冠動脈形成術のためDPC算定病棟へ転棟。	① 検査でDPC算定病棟へ入院後手術のため	狭心症で前回カテーテル検査のためDPC算定病棟へ入院、今回は冠動脈形成術のためDPC算定病棟へ転棟。		
	② 計画的手術・処置・検査のため	・ 前回、骨折でDPC算定病棟へ入院して観血的整復術を受けた。今回、抜釘手術のためDPC算定病棟へ転棟。 ・ 前回、急性心筋梗塞で大動脈バイパス手術を受けた。今回、術後のカテーテル検査のためDPC算定病棟へ転棟。	② 計画的手術・処置のため	前回、骨折でDPC算定病棟へ入院して観血的整復術を受けた。今回、抜釘手術のためDPC算定病棟へ転棟。		
	③ 計画的化学療法のため	前回、急性骨髄性白血病に対する化学療法のためDPC算定病棟へ入院、今回も化学療法を受けるためDPC算定病棟へ転棟。	③ 化学療法・放射線療法のため	前回、急性骨髄性白血病に対する化学療法のためDPC算定病棟へ入院、今回も化学療法を受けるためDPC算定病棟へ転棟。		
	④ 計画的放射線療法のため	前回、肺がんに対する化学療法のためDPC算定病棟へ入院、今回は放射線療法を受けるためDPC算定病棟へ転棟。	* 計 画 的 再 転 棟	④ 定期検査のため	前回、急性心筋梗塞で大動脈バイパス手術を受けた。今回、術後のカテーテル検査のためDPC算定病棟へ転棟。	
	[削除]	[削除]			⑤ 前回DPC算定病棟での入院時、検査・手術を中止して一時転棟したため	白内障手術のためDPC算定病棟へ入院したが、前日夕に咽頭部の発赤と発熱があったので手術を中止して転棟、軽快したので2週間後に手術のためDPC算定病棟へ転棟。
	⑤ 前回DPC算定病棟での入院時、予定された手術・検査等を中止して一時転棟したため	白内障手術のためDPC算定病棟へ入院したが、前日夕に咽頭部の発赤と発熱があったので手術を中止して転棟、軽快したので2週間後に手術のためDPC算定病棟へ転棟。	[削除]	[削除]	⑥ 手術のための体調回復をまつために一時転棟したため	前回、極度の貧血のためDPC算定病棟へ入院、子宮体癌の診断のもと貧血に対する治療を行い転棟、今回、貧血が改善したので手術（子宮悪性腫瘍手術）目的でDPC算定病棟へ転棟。
	[削除]	[削除]	⑦ その他			
	⑥ その他					

新		旧		
* 予期された再転棟	① 予期された疾患の悪化、再発のため	前回、胃癌再発でDPC算定病棟へ入院し治療を受けて転棟、療養中であったが腹水貯留が著しく、嘔吐を繰り返すようになりDPC算定病棟へ転棟。	① 予期された疾患の悪化、再発のため	前回、胃癌再発でDPC算定病棟へ入院し治療を受けて転棟、療養中であったが腹水貯留が著しく、嘔吐を繰り返すようになりDPC算定病棟へ転棟。
	② 予期された合併症発症のため	食道癌治療のためDPC算定病棟へ入院、患者の希望で胃瘻は造設されなかったが、転棟時に誤嚥性肺炎がおこることもあるとの説明を受けていた。転棟一週間後誤嚥性肺炎が発症したためDPC算定病棟へ転棟。	② 予期された合併症発症のため	食道癌治療のためDPC算定病棟へ入院、患者の希望で胃瘻は造設されなかったが、転棟時に誤嚥性肺炎がおこることもあるとの説明を受けていた。転棟一週間後誤嚥性肺炎が発症したためDPC算定病棟へ転棟。
	[削除]	[削除]	③ 患者のQOL向上のため一時転棟したため	前回、肺小細胞癌でDPC算定病棟へ入院したが、ターミナルであるが小康をえていたので、患者のQOLの向上を図るため転棟、今回、疼痛や呼吸困難が強くなりDPC算定病棟へ転棟。
	[削除]	[削除]	④ 前回DPC算定病棟での入院時において患者の都合により転棟したため	前回DPC算定病棟での入院時に、患者が手術を希望しなかった為手術を実施せず転棟となったが病状の変化により手術を実施することとなり、再度DPC算定病棟へ転棟し手術を実施した。
	③ その他		⑤ その他	
* 予期せぬ再転棟	① 予期せぬ疾患の悪化、再発のため	前回、虚血性心疾患でDPC算定病棟へ入院、治療を受けて軽快転棟、転棟時風邪をひかないようにとの注意を受けていたが、心不全になるとの説明はうけていなかった。転棟1ヶ月後風邪をひき、心不全になったためDPC算定病棟へ転棟。	① 予期せぬ疾患の悪化、再発のため	前回、虚血性心疾患でDPC算定病棟へ入院、治療を受けて軽快転棟、転棟時風邪をひかないようにとの注意を受けていたが、心不全になるとの説明はうけていなかった。転棟1ヶ月後風邪をひき、心不全になったためDPC算定病棟へ転棟。
	② 予期せぬ合併症発症のため	前回、食道癌治療のためDPC算定病棟へ入院、患者の希望で胃瘻は造設されなかったが、今後誤嚥性肺炎がおこりうるとの説明はなかった。転棟1週間後誤嚥性肺炎のためDPC算定病棟へ転棟。	② 予期せぬ合併症発症のため	前回、食道癌治療のためDPC算定病棟へ入院、患者の希望で胃瘻は造設されなかったが、今後誤嚥性肺炎がおこりうるとの説明はなかった。転棟1週間後誤嚥性肺炎のためDPC算定病棟へ転棟。
	③ 他疾患発症のため	前回、白内障のため眼内レンズ挿入術を受けて転棟、その5日後急性心筋梗塞を発症してDPC算定病棟へ転棟。	③ 他疾患発症のため	前回、白内障のため眼内レンズ挿入術を受けて転棟、その5日後急性心筋梗塞を発症してDPC算定病棟へ転棟。
	④ その他		④ その他	

平成 22 年度特別調査
「化学療法等の外来、入院別実施状況調査」、「医師あたりの患者数等の動向調査」
調査票(案)

施設コード								施設機関名

1 貴院における「病棟に従事している医師数」についてお伺いします。

問1-1 貴院の平成 20 年〇月、平成 21 年〇月、平成 22 年〇月において、病棟に従事している医師数を常勤換算でご記入ください。			
	平成 20 年〇月	平成 21 年〇月	平成 22 年〇月
医師数(常勤換算)	人	人	人
<p><注> 非常勤職員の常勤換算の計算方法について</p> <p>貴院の 1 週間の通常勤務時間を基準として、下記のような計算を行い、小数点以下第 1 位までご記入ください。</p> <p>例) 1 週間の通常の勤務時間が 40 時間の病院で、週 3 日(各日 5 時間)勤務の医師数が 4 人いる場合</p> $\frac{3 \text{ 日} \times 5 \text{ 時間} \times 4 \text{ 人}}{40 \text{ 時間}} = 1.5 \text{ 人}$ <p>常勤換算後の医師数 = _____ = 1.5 人</p>			

問1-2 貴院の平成 20 年〇月、平成 21 年〇月、平成 22 年〇月において病棟に従事している(外来に従事していない)麻酔科医師数、脳神経外科医師数、心臓カテーテル検査・手術に従事する医師数、消化管内視鏡検査・手術に従事する医師数を常勤換算でご記入ください。			
	平成 20 年〇月	平成 21 年〇月	平成 22 年〇月
産婦人科医師数 (常勤換算)	人	人	人
小児科医師数 (常勤換算)	人	人	人
麻酔科医師数 (常勤換算)	人	人	人
脳神経外科医師数 (常勤換算)	人	人	人

心臓血管外科医師数 (常勤換算)	人	人	人
整形外科医師数 (常勤換算)	人	人	人
眼科医師数 (常勤換算)	人	人	人
放射線科医師数 (常勤換算)			
心臓カテーテル検査・手術に従事する医師数 (常勤換算)	人	人	人
消化管内視鏡検査・手術に従事する医師数 (常勤換算)	人	人	人
救命救急室等で救急医療に従事する医師数 (常勤換算)	人	人	人
<p><問2の注> 心臓カテーテル検査・手術に従事する医師数、消化管内視鏡検査・手術に従事する医師数は各検査・手術に従事する時間に関わらず、人数を記入ください。</p> <p>(例1) 常勤医師が毎週水曜日の午後に心臓カテーテル検査を行っている→1人として計算</p> <p>(例2) 1週間の通常の勤務時間が40時間の病院で、週3日(各日5時間)勤務の医師が毎週1時間だけ内視鏡検査に従事している→3日×5時間/40時間=0.375人として計算</p>			

2 貴院における「患者数」についてお伺いします。

問2-1 貴院の平成20年〇月、平成21年〇月、平成22年〇月の月末在院患者数、外来患者延べ数をご記入ください。(病院報告として報告したものをご記入ください。)			
	平成20年〇月	平成21年〇月	平成22年〇月
月末在院患者数	人	人	人
外来患者延べ数	人	人	人

痔核手術(脱肛を含む。) (K743)			
1 硬化療法	件	件	件
2 硬化療法(四段階注射法によるもの)	件	件	件
3 結紮術、焼灼術、血栓摘出術	件	件	件
4 根治手術	件	件	件
5 PPH	件	件	件
ヘルニア手術 鼠径ヘルニア (K633 5)	件	件	件
体外衝撃波腎・尿管結石破碎術 (K768)	件	件	件
水晶体再建術 眼内レンズを挿入する場合(K282 1)	件	件	件
後発白内障手術 (K282-2)	件	件	件
心臓カテーテル法による諸検査 (D206)	件	件	件
胃・十二指腸ファイバースコープ (D308)	件	件	件
大腸ファイバースコープ (D313)			
1 S状結腸	件	件	件
2 下行結腸及び横行結腸	件	件	件
3 上行結腸及び盲腸	件	件	件
内視鏡的胃、十二指腸ポリープ、粘膜切除術(K653)			
1 早期悪性腫瘍粘膜切除術	件	件	件

2 早期悪性腫瘍粘膜下層剥離術	件	件	件
3 早期悪性腫瘍ポリープ切除術	件	件	件
4 その他のポリープ・粘膜切除術	件	件	件
内視鏡的結腸ポリープ・粘膜切除術(K721 全区分の合計※)	件	件	件
内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術(K721-2 全区分の合計※)	件	件	件
※ K721 及び K721-2 は平成22年度診療報酬改定において点数体系が変更となっているため、該当する区分全ての合計件数をお書きください。			

4 以下の化学療法についての貴院外来での実施状況をおたずねします。

問4-1 平成 20 年〇月、平成 21 年〇月、平成 22 年〇月に貴院で「大腸がんに対する FOLFOX/FOLFIRI 療法」を実施している患者ののべ人数をご記入ください。また、このうちベバシズマブを併用している患者の「のべ人数」も併せてご記入ください。

FOLFOX 療法/FOLFIRI 療法の定義は以下の通りと致します。
 使用する薬剤の分量に係らず、
 FOLFOX 療法：フルオロウラシル、レボホリナートカルシウム、オキサリプラチンの3剤を併用した化学療法
 FOLFIRI 療法：フルオロウラシル、レボホリナートカルシウム、イリノテカンの3剤を併用した化学療法

		FOLFOX 療法		FOLFIRI 療法	
		人	うちベバシズマブを併用している患者のべ人数	人	うちベバシズマブを併用している患者のべ人数
平成20年	入院	人	人	人	人
	外来	人	人	人	人
平成21年	入院	人	人	人	人
	外来	人	人	人	人
平成22年	入院	人	人	人	人
	外来	人	人	人	人

問4-2 平成 20 年〇月、平成 21 年〇月、平成 22 年〇月に貴院で「胃癌もしくは乳癌に対するパクリタキセル単剤療法」を実施している患者ののべ人数をご記入ください。

		胃癌に対して実施している患者のべ人数	乳癌に対して実施している患者のべ人数
平成20年	入院	人	人
	外来	人	人
平成21年	入院	人	人
	外来	人	人
平成22年	入院	人	人
	外来	人	人

問4-3 平成20年〇月、平成21年〇月、平成22年〇月に貴院で「卵巣癌、子宮頸癌、子宮体癌もしくは肺癌に対するパクリタキセル、カルボプラチン併用療法」を実施している患者ののべ人数をご記入ください。

		卵巣癌	子宮頸癌	子宮体癌	肺癌
平成20年	入院	人	人	人	人
	外来	人	人	人	人
平成21年	入院	人	人	人	人
	外来	人	人	人	人
平成22年	入院	人	人	人	人
	外来	人	人	人	人

設問は以上です。ご協力ありがとうございました。

DPC 制度に係る今後の検討について（案）

平成 22 年改定での対応とこれまでの中医協での議論（※）を踏まえ、平成 24 年の次回診療報酬改定に向けた DPC 制度に係る検討については、以下のような対応とする。（※平成 22 年 7 月 14 日・中医協総会【総 4 - 4】参照）

I. 検討事項

1. 基本的な考え方の整理

平成 22 年改定での調整係数から新たな機能評価係数への置換えを踏まえ、今後の対応に関する基本的考え方等（※）を再整理。
（※平成 20 年 12 月 3 日・基本問題小委【診-4】、同年 12 月 17 日・基本問題小委【診-2】等）

課題	具体的な整理・検討事項	整理・検討の視点
(1)DPC 制度における包括評価の基本的な考え方	① DPC 制度における包括評価の考え方の整理	● 診療報酬の包括評価の特質を踏まえ、DPC 制度における包括点数の設定方法、アウトライヤーの取扱い（包括評価の適用又は除外の基本的な考え方）等の特徴や考え方等を整理。
	② DPC 制度の運用における包括評価を適切なものとするための対応（医療機関別係数、包括範囲の設定、DPC の設定等）の整理	● 適切な包括点数を設定するために導入された、医療機関別係数（調整係数を含む）、包括範囲（診療報酬項目に応じた包括範囲）、DPC（診断群分類）の設定方式と考え方等を整理。
	③ 医療機関別係数の役割と調整係数の評価事項の整理	● 医療機関別係数（機能評価係数 I・II、調整係数）が果たす役割や評価事項を整理。

	④ 調整係数の役割や評価事項を踏まえた医療機関別係数のあり方の検討	● 機能評価係数Ⅰ・Ⅱや調整係数の役割等を踏まえ、調整係数置き換え後に導入する最終的な医療機関別係数のあり方（考え方）をどのように整理するか。
--	-----------------------------------	---

2. 具体的な事項の検討

1. の基本的な考え方を踏まえつつ、以下の事項について検討。

課題	具体的な整理・検討事項	整理・検討の視点
(1)機能評価係数Ⅱを含めた医療機関別係数の具体的な評価項目	① 医療機関別係数のあり方を踏まえた、既存項目（機能評価係数Ⅰ・Ⅱ）の評価と再整理	<ul style="list-style-type: none"> ● 現行の機能評価係数Ⅰ・Ⅱの各指数、係数の評価方法や考え方、項目間の重みづけは適切か。 ● 機能評価係数Ⅱの導入による行動変容等の影響は適切か。
	② 新たに導入すべき項目の具体案の検討	● 最終的な医療機関別係数のあり方と現行の機能評価係数Ⅰ・Ⅱの評価と再整理を踏まえ、新たに導入すべき項目の具体案は何か。
(2)円滑な調整係数・置換え行程のあり方	① 平成22年の導入の影響を踏まえた、今後の置換え行程のあり方（激変緩和・経過措置の考え方と具体案）の検討	<ul style="list-style-type: none"> ● 機能評価係数Ⅱの導入による医療機関運営への影響をどう評価するか。 ● 今後の段階的な置換えの行程について、実際に医療機関を運営する視点から、どの程度の将来的な見通しが求められるか。

(3) 抗がん剤を含む高額薬剤等の取扱い	① 包括対象の高額薬剤・処置等診療行為の DPC 制度における基本的な取扱いの考え方の整理	<ul style="list-style-type: none"> ● 包括範囲に含まれる高額薬剤・処置等診療行為について、新規保険導入時と診療報酬改定時 (DPC 改定時) の取扱いをどう考えるか。 ● これらの対応に際して、包括範囲の設定と DPC (診断群分類) 精緻化をどのように組み合わせるべきか。
	② DPC 制度における抗がん剤等の取扱いの検討	<ul style="list-style-type: none"> ● 高額薬剤の中で抗がん剤が持つ特性 (技術革新のスピード、薬価、レジメンの多様性等) を踏まえ、抗がん剤の取扱いをどう考えるか。

II. 今後の検討スケジュール（案）

検討課題	平成 22 年			平成 23 年								平成 24 年
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月～12月	1月～3月
1. 基本的な考え方の整理 (1) DPC 制度における包括評価の基本的な考え方	DPC 制度における包括評価の考え方の整理 DPC 制度の運用における包括評価を適切なものとするための対応の整理 医療機関別係数の役割と調整係数の評価事項の整理 調整係数の役割や評価事項を踏まえた医療機関別係数のあり方の検討											
2. 具体的な事項の検討 (1) 機能評価係数Ⅱを含めた医療機関係数の具体的な評価項目	医療機関別係数のあり方を踏まえた、既存項目（機能評価係数Ⅰ・Ⅱ）の評価と再整理 適宜特別調査等を実施 新たに導入すべき項目の具体案の検討											
(2) 円滑な調整係数・置換え工程のあり方	平成 22 年の導入の影響を踏まえた、今後の置換え行程のあり方の検討											
(3) 抗がん剤を含む高額薬剤等の取扱い	包括対象の高額薬剤・処置等診療行為の DPC 制度における基本的な取扱いの考え方の整理 ヒアリング DPC 制度における抗がん剤等の取扱いの検討											